

新しい学びのかたち

「九州の大学で英語力を高めるには、熊本大学に行くと一番の近道」と言われるようになった。原動力となったのが、熊本大学(中山峰男理事長・学長、熊本市西区)の英語学習施設「SILC」(シルク・ソロ International Learning Center)。神田外語大学(宮内孝久学長、千葉市美浜区)と英語教育に関する大学間連携を結ぶ。神田外語大の英語教育を導入、2010年、グローバル人材を育成するために、学内留学を体験できるSILCを設けた。16年の熊本地震で被災、約2年間、学習環境を学内に分散し、教育を行ってきたが、18年4月、新しいSILCが完成。SILC設立から9年間で、学生の英語力は徐々にアップし、17年の「全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」(神田外語グループ・読売新聞社主催)では文部科学大臣賞を受賞、他にも英語が不可欠なパイロットを養成する工学部宇宙航空システム工学系航空機工学専攻からは次々にパイロットが誕生するなど成果を上げていく。SILCの「新しい学びのかたち」をSILC担当者に聞いた。

SILC(シルク)

SILCは、英語を学べる可能性も大きく世界へ広がりが、昨年4月にリニューアルする。多くの学生に、その可能性を広げてやりたいという思いから、SILCの授業はここで行う。専任のラーニングアドバイザーとよばれる教員が常駐。英語学習に関する悩みや質問に答える。学生の学習計画を一緒に立てるといった自律学習支援も行う。

今回の取材には、ジョーン・ローベリー教授と同大事務局でSILC担当の大田黒佳子さんの2人が応じてくれた。(以下、法、教員、教材、学習環境の「1」の発言は、(大田黒)を一体化した「教育」とある大田黒佳子さんの発言以外は、ジョーン・ローベリー教授の発言となる)

「SILC」を設けたら、山理理事長の「地方の理系大学は、どこも英語教育に苦勞している。英語によるコミュニケーションはグローバル教育には欠かせない。英語ができる」というのはビジネスの

中山峰男学長に聞く



学長に就任以来、教育改革を断行、グローバル化の時代、技術者の多くが海外との仕事に関わる。国際社会で生き抜くには、専門的知識に加え、英語力が必要」とSILCを設けた中山学長に、その狙いや成果、これから聞いた。

「SILC」を設けた中山学長に、その狙いや成果、これから聞いた。

「SILC」を設けた中山学長に、その狙いや成果、これから聞いた。

グローバル化で英語力不可欠

「グローバル化で英語力不可欠」

「グローバル化で英語力不可欠」

学生の英語力徐々に上昇

全国学生英語コンテストで文科大臣賞

「全国学生英語コンテストで文科大臣賞」

「全国学生英語コンテストで文科大臣賞」



ガラス張りのモダンな新しいSILC



質問に丁寧に答えてくれたジョーン・ローベリー教授(右)と大田黒佳子(左)

「SILC」ができて9年、その成果のひとつ「社会で使えるきた英語」でなく、SILCができて9年、その成果のひとつ

「SILC」ができて9年、その成果のひとつ